



ハート池 マップ



中庭にあるハート池。きれいに掃除をし、千里川や猪名川の身近な水生植物を植えてオートプ化しました。現在は、ホタルや千里川・猪名川流域の多くの水生動物もいて、トンボなども見られるので観察すると楽しいよ。



ハート池の 水生動物



ゲンジボタルの幼虫



ゲンジボタル 在来種
ゲンジボタルとともに人里の水辺で見られるボタル。幼虫は水中で生活し、色々な貝をエサにしている。ゲンジボタルより小型で、少しよほど水路や水田の周囲に生息することが多い。大阪府では準絶滅危惧種に指定されているんだよ。



オス 在来種
コイ科に分類される淡水魚。カワムツと並ぶ身近な川魚で、千里川にもいるよ。



ニホンイシガメ 在来種
日本固有種。河川や湖沼・池・湿原・水田などに生息し、やや流れのある流水を好む。食性は雑食で、地面に落ちたカキなどの果物や、トマトやキュウリ類などを食べることもあるよ。耐寒性が強く、国(環境省)の準絶滅危惧種に指定されているんだよ。

モクズガニ 在来種
甲幅が7~8cmほどに成長し、川に産するカニの中では大型種であり、はさみ脚に濃い毛が生えるのが大きな特徴。成体(親)は河川、湖沼で暮らし、秋から冬に産卵のために海に下る。汽水域で繁殖し、小ガニとなって夏には河川を上る。基本的には水中にある植物をエサとしているが、動物質のものも食べる。はさみ脚に毛が密集していて「藻くす」に見えるため、その名前がつけられたんだよ。



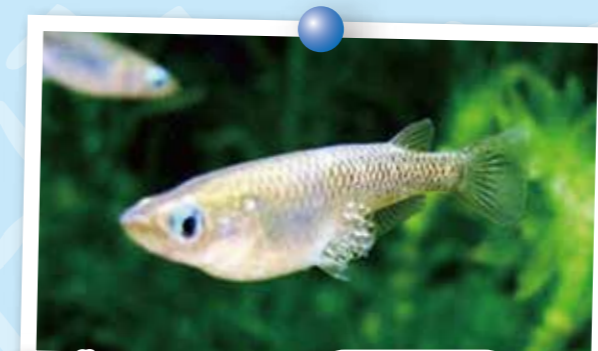
ヤリタナゴ 在来種
流れが緩やかで水草の豊富な河川、湖、池沼、用水路に生息している。植生は雑食。繁殖形態は卵生で、初夏の繁殖期にはオスは胸部が赤く、背鰭や尾鰭はオレンジ色になり、メスは淡いオレンジ色の産卵管をのびし、生きたマツカサガイなどの二枚貝の中に産卵するよ。国(環境省)の準絶滅危惧種に指定されているんだよ。



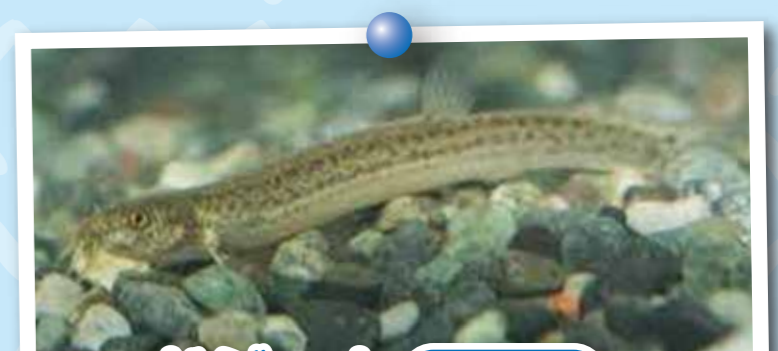
シマヒレヨシノボリ 在来種
水の流れのほとんどない池沼や穏やかな流れの用水路などを好む。全長は5cm程度で、第2背びれや尾びれに縞模様が見ることが名前の由来。のど部は橙色で、尻びれと尾びれ下部は薄い朱色や橙色をしている。本種はウヨシノボリと呼ばれていたグループに属していたが、2010年に個別種として提唱され、「シマヒレヨシノボリ」の新標準和名が与えられ、2019年2月に新種記載された。国(環境省)の準絶滅危惧種に指定されているんだよ。



ギンブナ 在来種
マブナとも呼ばれ、一般的にフナといえはギンブナとともに本種を指すことが多い。主に池沼や河川の下流など、比較的流れの穏やかな場所に生息しているよ。



メダカ(目高) 在来種
目が大きく、頭部の上端から飛び出していることが、名前の由来になっている。昔は童謡「めだかの学校」にも歌われたように、小川にはごく普通にメダカの群れが見られたが、最近では野生のメダカが各地で減少し、姿を見ることが難しくなってきた。国(環境省)の絶滅危惧種に指定されているんだよ。



ドジョウ 在来種
日本の平野部の水田や湿地などに全国的に生息しているが、大阪府下では少なくなっている。(大阪府絶滅危惧Ⅱ類)箕輪小学校の近くの水路にも昔はいっぱいいたんだよ。



ミナミヌマエビ 在来種
ヌマエビの仲間。少し前までは猪名川流域にたくさん生息していたが、そこに外国からカワリヌマエビが持ち込まれ、ミナミヌマエビとの雑種化が進んでいることがわかってきたので、ハート池にいるエビの中にもその種がいると思われるよ。



マツカサガイ 在来種
淡水にすむ二枚貝で、湖沼および穏やかな流れのある河川の下流域や用水路などの砂泥底に見られるよ。殻は約60mm。殻長部付近にさざ波の凹凸があり、成長につれて目立たなくなる。殻皮は黒く、あるいは茶褐色をしていて厚く、殻の内側は真珠光沢を持ち、殻頂下の擬主歯は太くて三角形に広がっている。国(環境省)の準絶滅危惧種に指定されているんだよ。



ドブガイ 在来種
川や沼の底の泥中に生息する二枚貝。殻長は10cmほどだが、形態的変異が大きく、20cmを越えるものも見られる。擬主歯がまったくないことが特徴。ハート池にいるのは小型のタガイ(ドブガイB型)だよ。



ヒメタニシ 在来種
北海道~九州の水田・池沼・用水路など日本のタニシ科ではもっとも多様な環境に生息し、また汚染にも比較的強いんだよ。



オオタニシ 在来種
殻高約6.5cmで、水田にも見られるが、水の干上がらない池沼や湧水のある場所などに多く見られるよ。大型で、殻底に比較的明瞭な角があるものが多い。国(環境省)の絶滅危惧種に指定されているんだよ。



カワナ 在来種
比較的きれいな流水に生息する細長い巻貝で、ゲンジボタルの幼虫は主にこの貝を食べて大きくなるんだよ。

ヒメモノアラガイ 在来種
水田・用水路・湿地・ため池など、あまり流れのない水域に広く生息し乾燥にも強い。ヘイケボタルの生息地では幼虫のエサになる。市街地の雨水溝などにもいたりするよ。



クロスジギンヤンマ 在来種
ギンヤンマに似ているが、胸の両側に黒くて太い線があるので区別できる。写真はメスで、オスの腹部は水色で美しい。幼虫(ヤゴ)は、ギンヤンマよりも暗い木陰の小さな池や沼を好むので、ビオトープ池にもよく来る。4月~5月の朝に羽化するのが見られるよ。*語源は「ヤンマ(大型のトンボ)のコ(子)」が略されたものと言われていたんだよ。



オオシオカラトンボ 在来種
シオカラトンボに似ているが、少し大きく色が鮮やか。シオカラトンボと同様にメスは黄色みを帯びる。夏季にはハート池でよく見られるよ。

ハート池の 水生植物



1 スイレン 園芸種
温帯性のスイレンで日本各地の庭園などに植えられている園芸植物。白花もあるよ。



2 ショウブ 在来種
日本では北海道~九州までの水辺・池・川などに生える多年生の草本。薬草・漢方薬としても用いられているんだよ。



3 ヒメガマ 在来種
ガマよりも葉が細く、穂も小ぶりである。雌花の上部に雄花があり、花粉は古代より止血薬として利用されてきたんだよ。



4 セキショウ 在来種
小柄な深緑色の草で、深流沿いに生える。根茎は、昔から薬草として珍重されており、鎮痛・鎮静・健胃薬にされ、神経痛や痛風の治療にも使用されたんだよ。



5 セリ 在来種
小川のそばや水田周辺の水路沿いなどで見られる。春の七草の一つで、日本では古くから食用にされており、平安時代には宮中行事にも用いられたんだよ。



6 ツルヨシ 在来種
よく知られているヨシの仲間。地上や水面に長くのびる匍匐茎(ほふくけい)が特徴。泥ではなく砂地の河原に生え、背丈は3mくらいまでなる。猪名川や千里川で見られるヨシはこれなんだよ。



7 マツモ 在来種
金魚藻として知られる植物のひとつで、全国の湖沼、ため池、水路などに見られるよ。多年草植物で、根を持たずに水面下に浮遊していることが多い。アクアリウムの水草として使用されることが多く、淡水の幅広い環境で生育しているよ。



8 エビモ 在来種
全国の湖沼やため池、小川などに生える多年草の水草。沈水状態で生育することがほとんどで、葉は波打っており、10cm以内。名前の由来はエビの生育する場所に生えているためなんだよ。



9 イヌタヌキモ 在来種
水のきれいな(貧栄養)ため池に生育する食虫植物で、水中のプランクトンなどを捕食(ほちゅうのう)に吸い込んで栄養とする。夏に水上に黄色い可憐な花を咲かせる。タヌキモの仲間は生育場所が減り、国(環境省)の準絶滅危惧種に指定されているんだよ。*池田市のため池に自生したものを刀根山高校でふやし、それを移植



10 ミズキクノシタ 在来種
湖沼やため池の水辺や湿地などに生えるが、水中でも生長できる。沈水状態で育てると、葉に赤みが出て美しくなるよ。



11 ナガバミソアイ 外来種
水中の土中の根茎から葉柄を伸ばし、細長い心形の葉をつける。6~10月頃、穂状花序を作り、淡青紫色の花を咲かせるよ。



12 ナガバオモダカ 外来種
多年生の抽水植物で、水上に花茎をのびし、白い3枚花弁の可憐な花をつける。北アメリカ原産の水草で、世界各地で熱帯魚用水草として「ジャイアント・サキタリア」の名前で栽培されてきたが、近年日本各地の水辺でも繁殖しているよ。



13 オオカナダモ 外来種
いわゆる金魚藻のひとつ。とても丈夫な水草で水に浮かせているだけでも枯れることはないんだよ。5月から10月ごろには水上に白い花を咲かせ、花は三弁の丸い花びらを持ち、よく目立つよ。



14 オランダガラシ(クレソン) 外来種
抽水(ちゅうすい)植物*もしくは沈水植物。繁殖力が強く、明治の初めに外国人用の野菜として持ち込まれ、今では各地の河川や水路に自生している。肉料理の付け合せなどに用いられているよ。*根は水底にあり、葉や茎が水面から出ている植物のこと。



15 タテバチドメグサ(ウォーターマッシュルーム) 外来種
葉は丸くてかわいらしく、きのこに似た葉をニョキニョキと伸ばすのでこのような名前が付いている。水生の抽水植物で、根や茎は水の中や濡った所に漬かり、地上部に葉が出て育つよ。初夏から秋にかけて小さくて目立たないけど白花が咲くよ。